

平成28年第1回北海道議会定例会 一般質問 開催状況 (環境生活部)

開催年月日 平成28年3月10日(木)

質問者 民主党・道民連合 広田 まゆみ 議員

答弁者 環境生活部長 宮川 秀明

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>二 北海道命名150年を契機とした文化資本の確立・強化について</b></p> <p><b>(一) 文化資本の意義と課題について</b></p> <p>文化資本の意義と課題についてですが、知事は、北海道と命名されて150年を迎える平成30年の節目に、本道の歴史や文化遺産、地域の魅力や価値を道民の皆様とともに再認識し、道内外に発信するため、幅広い意見を聞きながら、道民参加型の記念事業などにも取り組まれるなどの検討を加速化する考えを示されました。</p> <p>知事は、これからの北海道における文化資本の意義についてどのように認識し、北海道の文化資本の現状とそれを確立するための課題、例えば、結果として、日本遺産の認定申請の取組が遅れている現状なども率直に総括し、平成30年の節目を契機として、文化資本確立のためにどのような取組を展開される考えか伺います。</p> <p><b>(二) 文化資本を支える人材育成の位置づけについて</b></p> <p>次に、文化資本を支える人材育成について伺います。</p> <p>私は、国指定の文化財から文化財に至らずとも次の時代に引き継ぎたい北海道の豊かな自然や、先人たちの歴史・文化、生活、産業などの有形無形の地域の宝や、その保全と活用に取り組む人材までを文化資本として捉えています。</p> <p>北海道においては、NPO法人北海道遺産協議会などが中心となり、北海道遺産などを文字通り地域の宝として、活用できるか否かも問われているところです。</p> <p>これらの国指定未満であったとしても、こうした文化資源の喪失、消失は、貴重な地域資源の喪失、消失です。</p> <p>多様な文化資源の保護・管理、そして活用を支える人材の育成と配置が不可欠であります。</p> <p>知事は、人材育成の大きな目玉として、基金を創設して、子どもたちの留学などを支援することを表明されて</p>	<p><b>(環境生活部長)</b></p> <p>はじめに、地域文化の振興についてであります。各地域で取り組まれている音楽や美術、映画や演劇などの創作活動をはじめ、伝統芸能や歴史を伝える遺跡・建物、また、産業やくらしに関わる道具・資料などは、その地域に暮らす方々にとって地元への愛着や誇りとなり、心の豊かさをもたらす貴重な財産であり、大切に守り育てていくことが必要となっております。</p> <p>このため、道では、北海道文化基金を活用して、地域における様々な文化活動を支援するほか、地域の歴史を活かした野外劇や、廃校を利用した美術館など、文化活動を地域の活性化に結びつける先進的な取組に対して、「地域文化選奨」を贈呈し、こうした取組を促進しますとともに、道内各地の文化財や伝統芸能などを後世に引き継ぐため「北海道文化資源データベース」として取りまとめ、道のホームページを通じて広く一般に公開しております。</p> <p>また、新年度には、本道にゆかりの深いまんがやアニメに関する情報発信や新たな発表の場となる、まんがコンテストの実施など、メディア芸術の活用に取り組むこととしており、幅広い分野、観点から地域文化の振興により一層取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p><b>(環境生活部長)</b></p> <p>次に、地域文化を支える人材の育成についてですが、道におきましては、音楽やダンス、演劇や絵画などの文化芸術活動に取り組む若手の芸術家の方たちの発表の場として、国内外から多くの方が訪れる赤れんが庁舎を活用して、「アートパフォーマンス・イン・赤れんが」を定期的に開催しますとともに、地域で文化芸術活動に取り組む方たちに対し文化事業の企画・制作の専門家や、音響や照明など舞台装置の専門家など、専門分野のアドバイザーを派遣するなど、地域の文化を支える人材の育成を図っております。</p> <p>また、新年度に創設を目指している、仮称ではありますが、「北海道未来人材応援基金」におきましては、文化・芸術分野での活躍を志しながら、経済的な理由が制約となっている子供たちへの支援を行うよう検討しており、こうした取組を通じて、本道文化の将来を担う人材育成</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>おりますが、私としては、この多様な文化資源の保全と活用のための資金調達や人材育成の仕組みの制度創設こそ、150年の節目を迎える北海道の知事にふさわしい仕事ではないかと考えますが、見解を伺います。</p> <p><b>(三) 日本遺産の認定に向けた取組について</b></p> <p>北海道は、蝦夷地から北海道へと近代化の新たな時代を迎える過程において、移民による急激な人口増や海外からの技術移転により、急速な産業化を迎え、そこには、先人たちのたゆまぬ努力がありました。私としては150年を一つの契機とし、文化庁による日本遺産認定の機運、北海道遺産の磨き上げをし、単なるイベントに終わらない地道に北海道の歴史研究や文化資源の保全や発信のために活動してきた方達の実践や知見に光が当たるような取組みが必要だと考えます。</p> <p>北海道は歴史がないと言われますが、縄文時代から続く歴史や北前船の往来のように、実は私達、北海道の鯨から作る肥料が日本の伝統工芸品を支えてきたことなども、日本遺産のひとつのストーリーとして他府県とも連携しながら、北海道から発信していく大きな契機とすべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p><b>(四) 北海道博物館について</b></p> <p>次に、北海道博物館について伺います。</p> <p>北海道博物館は、新しいミッション、そして、北海道博物館としても基本計画を掲げ、取組を進めています。</p> <p>150年を展望しながら、知事は北海道博物館にどのような役割を期待し、北海道博物館が掲げたミッションを具体的に実行するために、具体的に、今後、何を行う考えか伺います。</p>	<p>に取り組んでまいる考えであります。</p> <p><b>(教育長)</b></p> <p>日本遺産の認定に向けた取組についてでございますが、本道には、北東北3県とともに世界遺産の登録を目指している縄文遺跡群をはじめ、歴史的魅力に溢れ国内外に発信できる多くの文化遺産があるものと認識をいたしております。</p> <p>中でも、北前船につきましては、日本海側の寄港地の連携や地域間交流による地域活性化を図るため、平成19年度から民間団体や関係市町村による「北前船寄港地フォーラム」が開催されてきており、これまでの連携を基盤として、日本遺産の認定実現を目指し、函館市を含む道内外の市町村等で構成する協議会の設立を検討している動きもあると承知をいたしているところでございます。</p> <p>道教委といたしましては、江差町や小樽市などそれぞれ地域の文化財群による日本遺産の認定を目指す市町村の取組を今後とも積極的に支援するほか、道内の複数市町村にまたがる取組や他府県との連携につきましても、引き続き情報収集に努めるとともに、関係自治体の意向を十分把握した上で、本年2月に設置した観光や地域振興など関係部局で構成する「日本遺産連絡調整会議」において、必要な対応や支援について検討して参る考えでございます。</p> <p><b>(環境生活部長)</b></p> <p>次に、北海道博物館の役割などについてでございますが、北海道博物館は、昭和46年に開拓記念館として開館して以来、北海道の生い立ちや開拓の足跡を示す資料を収集・保存し、調査研究や展示、教育普及活動を通して、北海道の歴史と先人の遺産を後世に伝える役割を果たしており、昨年4月には、アイヌ民族文化研究センターと統合して、北海道博物館として、リニューアルオープンしたところであります。</p> <p>北海道博物館におきましては、アイヌ文化や自然・環境を含めた総合的な博物館としての役割はもとより、それぞれの地域において、歴史や文化の再発見などを通じた地域の活性化が進むよう、各地の郷土資料館や美術館、博物館と協力関係を築き、研究成果などの情報を共有しますとともに、郷土資料館などの学芸員の方たちに対し、研修会などを通じて、博物館運営に関するこれまでの具体的な実践例やノウハウなどを紹介、また、アドバイス</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>(一)一 再 文化資本の意義と課題について</b></p> <p>再質問いたします。知事は、人口減少問題など、幅広い分野にわたる取組みが求められる政策課題について、「総合的な」対応が求められるという認識を示されました。</p> <p>「総合的」というのはいったいどういう対応でしょうか。</p> <p>文化資本について、「文化」は、環境生活部だからということで、環境生活部長からのご答弁をいただきました。</p> <p>なぜ、私が「文化資本」という新たな概念、言葉を持ち出したのか、改めて確認しておきたいのですが、住民参加による文化芸術活動は、コミュニティを再生し、地域に活力と誇りをもたらし、人口減少対策にもつなげると考えるからです。</p> <p>人口減少対策とは、生産年齢人口の絶対数の減少、高齢者人口の絶対数の増加のなかで、どう地域経営をしていくのかという厳しい課題であると同時に、例えば、東京や大阪などの大都市にない北海道の地域のそれぞれの価値を再評価していくこと、自分たちの地域の良さを再発見していくことを支援する取組みであるとも、私は考えています。</p> <p>これまでは、地域の豊かさや発展の「ものさし」は、社会資本整備にあったのではないのでしょうか。東京や大阪と同じような建物や道路が自分の町にもできることが、豊かさとしてきました。しかし、我が国、特に、私たちの北海道は、人口減少時代を迎え、新たなものさしを必要としています。</p> <p>その新たな北海道の50年後100年後の未来に向けたものさしを、庁内外に提起し、新たな成長発展の方向性を道民の皆さんにお示しすることも道としての大きな役割だと考えます。</p> <p>北海道命名150年を契機として、知事ご自身も文化についての言及が対外的にも多くなっていると、私は認識していますが、本道の文化行政は、教育庁、環境生活部、そして総合政策部など、複数の部にまたがっており、改めて総合的な観点から知事に伺います。</p> <p>本道の文化資本について、また、それを支える人材育成も含めた仕組みづくりについて、150年を契機として総合的に議論することの必要性について、どのようにお考えか伺います。</p>	<p>を行うなどしながら、道内博物館の中核としての役割を果たしていくことができるよう努めてまいる考えであります。</p> <p><b>(知事)</b></p> <p>広田議員の再質問にお答えをいたします。</p> <p>最初に北海道150年に関し、文化についてであります。近年、人々の価値観の多様化が進み、物質的・経済的な豊かさだけでなく、ゆとりや潤いなど心の豊かさが一層求められるようになり、文化に対する関心が高まってきていると認識をいたします。</p> <p>こうした中、私といたしましては、明治2年に北海道と命名されて以来、150年目に当たる節目に、これまでの歴史、アイヌ文化や縄文文化など本道独自の文化、さらには、各地域の魅力や活力を道内外に発信する取組などを全道で展開をしたいと考えているところであります。</p> <p>こうした財産を改めて見つめ直し、新たな価値を見出し、道民の皆様方と共有するとともに、文化の持っている力を、どのように北海道の活力につなげていくかについて、道民の皆様方のご意見を伺いながら、取り組んでまいります。</p>